【授業科目】助産学概論　　Introduction to Midwifery

担　当　教　員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
日比千恵、髙塚麻由	３年次 前　期	選　択	２	３０	講　義	あり	巻末 掲載	可

授業概要（内容と進め方）及び課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／助産学入門として、助産の歴史・概念・理論・職業倫理・助産活動について学び、その活動が個人、家族、コミュニティの健康レベルに及ぼす影響と助産専門職の役割を探究する。講義は教科書と資料を用いる。また、助産及び助産学に関する様々な課題については、グループワークおよび発表を行う。 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法／グループワーク時の講評および課題のコメントは授業で全体の総評を行う。 ＊実務経験を持つ教員が授業を進める。
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー②「人間の健康を環境との関係においてとらえ、地域社会の生活者の視点から看護を実践する能力を修得することができる」の達成に寄与している。
到達目標（履修者が到達すべき目標）	(1)　助産の概念について説明できる。 (2)　助産師の定義と業務について説明できる。 (3)　助産師と生命倫理、助産ケアに活用できる諸理論を説明できる。 (4)　助産師の国内外における活動ついて説明できる (5)　助産師の教育のあり方について説明できる。 (6)　助産師の専門職性における課題を探究することができる。
時間外学習に必要な内容・時間	【事前学習】母性看護概論、母性看護援助論Ⅰ，Ⅱの復習（各90分） 【事後学習】各自の学びを復習することで確認する。（各150分） 第1～14回：自己学習ノートに授業資料を整理し学習内容をまとめる。 第13回は多様な文化における助産についてのグループワーク・発表を行う。 第15回：参考図書を読み課題レポートをまとめる。 自己学習ノートを提出し、返却時に学習方法・自己学習ノートについてフィードバックを行う。 ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。
授業計画	第１回　助産学の概念、助産の意義について学ぶ　　第 1～8 回：日比 第２回　助産師の職制と業務・責務 助産師の身分、業務と責務、求められる能力 第３回　助産学を支える理論① 第４回　助産学を支える理論②（グループワーク） 第５回　助産の歴史と文化　わが国の産育風俗史　多様な文化における助産　課題提示 第６回　助産実践の倫理①　生命倫理、助産師の職業倫理（医療の質を含む） 第７回　助産実践の倫理②　倫理的課題と意思決定支援　事例検討（グループワーク） 第８回　助産実践の倫理③　倫理的課題と意思決定支援　発表 第９回　助産師の国際活動と諸外国の助産　　第 9 回：髙塚 第 10 回　助産師と災害について学ぶ 第 11 回　母子保健の動向と助産師の役割①　母子保健の歴史 第 12 回　母子保健の動向と助産師の役割②（グループワーク） 母子保健の現状と動向、母子保健行政・施策　　第 10～15 回：日比 第 13 回　助産の歴史と文化　わが国の産育風俗史、多様な文化における助産　課題発表 第 14 回　助産教育について学ぶ 第 15 回　助産師の歴史から学ぶ将来の方向性、助産師を取り巻く現状、助産師の役割・目指すべき方向性　参考図書を読み、課題レポート事前提出
評価方法 評価基準	定期試験 60%、課題レポート 15%、課題発表 15%、自己学習ノート 10%
教科書	1.我部山キヨ子他　基礎助産学1　助産学概論　医学書院 2.我部山キヨ子他　助産学講座9　地域母子保健・国際母子保健　医学書院
参考書等	『助産力』進 純郎, 日本助産師会出版会 『子宮力』進 純郎, 日本助産師会出版会 福井トシ子編「助産師業務要覧第 4 版　Ⅰ基礎編、2024 年版」日本看護協会出版会
学生への助言等	この授業は、助産学を支える理論、諸外国、我が国の助産師の役割などを理解し、助産師の専門教育に入るための基礎となる科目です。グループワークを取り入れながら、みんなで多くのディスカッションを通して、助産師の役割など一緒に考えていきましょう。